

議題 1

市民ギャラリーについて

現在の市民ギャラリーの建物は、昭和29年に旧日本電信電話公社の支店として建設された。その後、公民館、図書館として使用され、改修工事を経て、平成3年から市民ギャラリーとして利用されている。

開館後29年目となる平成31年12月には、鉄筋コンクリート建築の耐用年数の目安とされる建築後65年となる。

開館5年目の平成8年頃から施設各部の老朽化が目立ち始め、屋上や外壁の亀裂による雨漏り、サッシ廻りの漏水など、大小様々な補修工事を経て現在に至っている。

内部の設備についても老朽化が進んでおり、昨年空調機が1基故障した。また東側非常階段も腐食が進んでいる。今後も、他の設備の老朽化と故障が進むことが予想される。

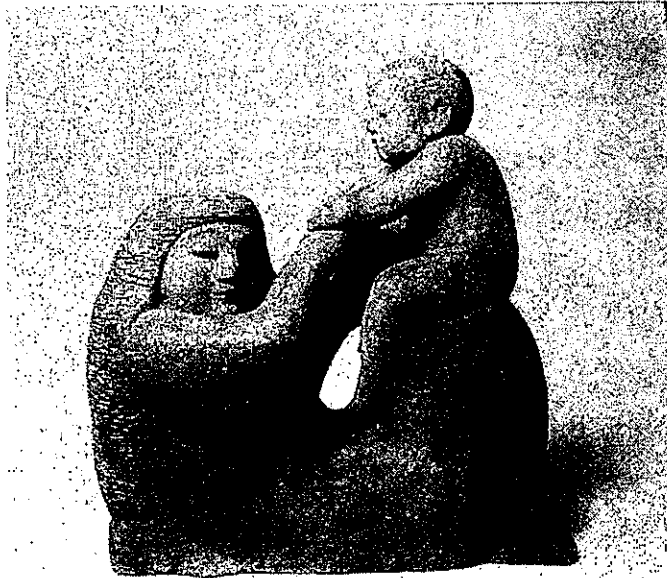
昨年度実施された事業仕分けでは、バリアフリー化されていないこと、駐車場の台数が少ないこと、建物の老朽化が著しいことから、市民判定人から「不要・凍結」の判定を受けた。

以上の点を踏まえ、現在の市民ギャラリーは、閉館する方向性で検討を進めることとする。

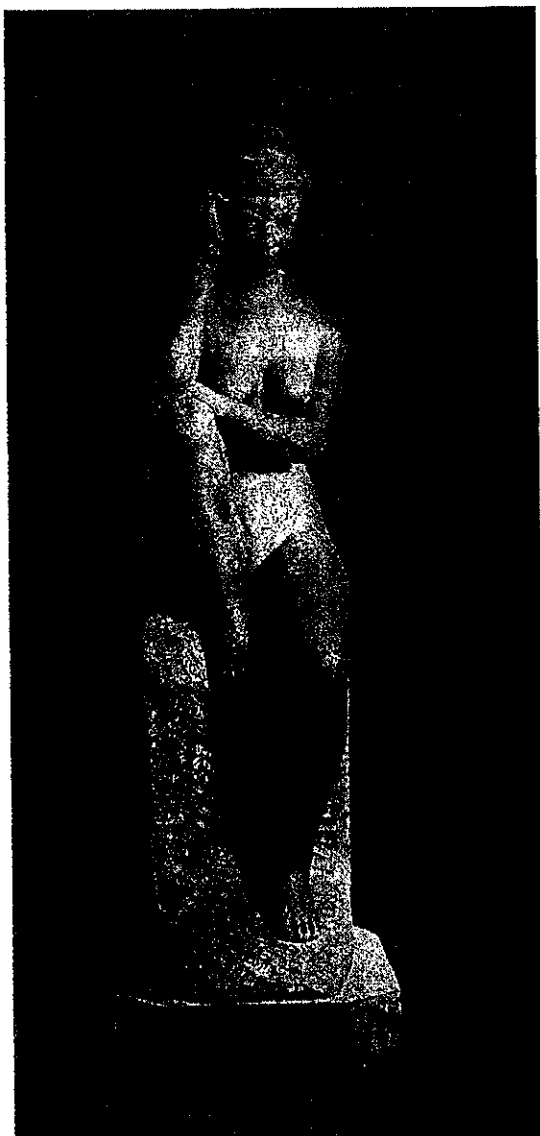
現在、市民ギャラリーの一階常設展示室では、長谷川昂先生の彫刻作品35点が展示されている。今後、市内の公共施設、公民館や小学校、中学校などで安全性が確保されることを前提として展示公開ができるように、協議を進め、少しでも長谷川昂先生の彫刻作品が市民の目に触れられるよう、活用を図りたい。



大地 幅97cm



春濤 幅 7 5 cm



壤にきく 高さ 1 6 0 cm



河童 高さ 9 4 cm